

飯館村農の大地活性化基金条例
を廃止する条例

飯館村村民の森の指定管理者の指定

平成22年度 飯館村簡易水道
事業特別会計補正予算

飯館村健康増進交流施設の指定
管理者の指定

飯館村農林漁業体験実習館の
指定管理者の指定

飯館村地域資源活用総合交流
施設の指定管理者の指定

飯館村大倉キャンプ場の指定
管理者の指定

飯館村産地形成促進施設の指定
管理者の指定

飯館村畜産技術センターの指定
管理者の指定

佐須辺地に係る総合整備計画の
策定について

岩部辺地に係る総合整備計画の
策定について

大倉辺地に係る総合整備計画の
策定について

土地の取得について(草野地区)

土地の取得について(飯樋地区)

報告

専決処分報告のごとく

平成22年4月1日から公立小野町地方総合病院組合の名称が、公立小野町地方総合病院企業団に変更することについて、意義がない旨の専決処分。

追加議案

平成21年度飯館村情報通信基盤整備事業光ファイバ敷設工事(飯樋地区) 請負変更契約について

固定資産評価審査委員会の専任について

長谷川侑廣氏(伊丹沢)を飯館村固定資産評価審査委員会の委員に選任したので、地方税法第423条第3項の規定により議会の同意を求めるもの。

村長村政報告(紙面の都合で内容は一部省略してあります)



▲新春を祝った村民のつどい

第3位には、「新型インフルエンザ対策本部を設置」が入り、565票でした。

また、村づくりアドバイザーとして、また、「日本再発見塾」でもお世話になりました建築家の「佐川 旭(さがわ あきら)」氏による「6次産業の可能性」と題した講話も行われ、これからの村の産業の発展性について、考えさせられる大変ためになる講話であったと思っています。

「まごころまつり」

2月28日に村公民館を会場に開催しました。

この事業は、今まで別々に行っていた「までいマイグッツコンクール」及び「までいライフ顕彰事業」の表彰式、並びに都会の方達に農家民泊してもらった「までいな休日」などの交流事業報告会を一緒に実施したほか、熊本大学の徳野貞雄教授をお招きし、「ムラの幸せ、マチの幸せ」をテーマに講演会を実施しました。

村内外から約100人が参加し、熱心に耳を傾けておりました。

▼村税の収納状況

平成21年度村税の収納状況については、ほぼ前年並みの収納率となっていますが、滞納繰越分の収納率が伸び悩み、依然として厳しい状況にあり、村税は村の重要な自主財源です。村の財源確保のため、今後とも納税の啓発と収納率の向上に努力して参ります。

▼ごみ処理対策

村の可燃ごみは、南相馬市へ焼却処分を委託して状況を見守って来ましたが、順調に推移していることから平成21年12月7日付で「クリアセクター焼却施設の休止届出書」を県に提出し、同日で「施設の休止」をしました。

ごみの分別や収集の見直しを行い、平成22年4月1日からの「ごみ収集体制の見直しに係る地区説明会」を全行政区に於いて実施し、村民の皆様には、更に分別を徹底していただくようお願いしておりますので、ご協力をお願いいたします。

▼子育て支援事業

若い男性への子育ての応援が、少子化対策にもつながるものとの思いで、1月31日は「お父さん 出番です」

の事業を3回コースで実施し、最終回の3月21日は、「パパ力検定」を実施することになっています。

さらに、この事業で商工会にも、子育て応援事業を積極的に取り組んでもらい、3月1日は、「いいたてならではの 子育てフォーラム」をいちばん館で開催しました。子育て体験談やナイスパパの表彰などを通して、一層の子育てしやすい環境づくりに努めたところです。

▼障がい者多機能事業所開設

2月4日は、障がい者多機能事業所開設に伴う住民説明会を開き、事業主体である福島県福祉事業協会に対し、住民からの要望と意見が出されました。

福祉事業協会としては、住民の方々からの声を真摯に受け止め、今後の事業展開に生かしていきたいとのことであり、村としては、障がい者の方が少しでも社会の中で生活できるよう支援します。

▼統合診療所「いたてクリニック」の管理に関する基本協定締結式

2月18日には、統合診療所「いたてクリニック」の管理に関する基本協定締結式を行いました。

▼「新春村民の集い」

1月17日、村公民館を会場に開催しました。

当日は、村民などおよそ160人の方々にご出席をいただき、本村ならではの手作りの内容により、新春を祝ったところです。

なお、平成21年の村の10大ニュースの第1位は、「飯樋小学校でのエコキップ運動」で、605票。第2位には、「飯樋の前山公園にイルミネーション」が入り、591票。

指定管理者による管理期間を10年と定めたほか管理に係る基本内容を確認しました。

▼農政関係

平成22年度から始まる米戸別所得補償モデル事業・水田利活用自給力向上事業がスタートします。

また、国の要綱・要領が示されておらず、農家の皆さんは戸惑っているのが現状ですが、1月28日に飯館地域水田農業推進協議会の臨時総会が開催され、22年度産米の生産数量配分が決定されました。生産数量は昨年と同様4324トで、作付面積は895畝と、前年に比べ3.7畝減少しています。

▼農業振興大会

2月4日にはJA主催による農業振興大会が開催されました。

農畜産物生産共励会も同時開催され1年間の報告がありました。平成21年の気象は、梅雨明け宣言のない年となりましたが、最低気温があまり下がらなかったため冷害にはならず、水稻の生育は、ほぼ平年並の99となりました。

ブロッコリーでは定植作業が若干遅れ気味だったものの、収量・

品質ともに良好となりました。

トルコキキョウでは一時期の低温・日照不足により、収量・品質の低下することもありましたが、最終的に概ね平年並みになったとの報告を受けています。

また、そうま農業協同組合 飯館花卉部会が平成21年度豊かなむらづくり顕彰事業「農業生産部門」で3月18日に知事表彰を授与されることになりました。

▼中山間地域等直接支払制度

第2期対策が今年度で5カ年の最終年ですので、集落協定に記載されている内容の目的達成状況の確認をする必要があります。

また、平成22年度からは第2期対策の制度を維持し、高齢化の進行に配慮した取組みも推進し第3期対策として5カ年継続されます。引き続き本制度に乗れるよう取り組んでまいります。

▼畜産関係

枝肉相場の低迷から、子牛価格の下落が止まらない状況にあり、子牛の全国平均価格が平成18年には1頭50万7000円で取引されていたものが、平成21年には